

宮島議員。〔11番 宮島 宏君登壇〕

○11番（宮島 宏君）

翠新クラブの宮島 宏です。

本日5人目の一般質問となりますが、よろしくお願ひいたします。

今回の私の一般質問では、3つの項目について質問させていただきます。

1つ目は、旧JR西日本糸魚川寮敷地の利活用について、2つ目は、新技術を活用した熊対策、3つ目は、電子地域通貨翠ペイの利活用についてです。

それでは1番目です。旧JR西日本糸魚川寮敷地の利活用についてですが、糸魚川駅アルプス口から東南東約140メートルの距離に、駅北大火後の2018年1月に市が西日本旅客鉄道株式会社から約1億6,000万円で取得した面積約4,800平方メートルの土地（以下では、旧JR西日本糸魚川寮敷地と申します）があります。取得後、建物及び空き地は、一時期利用されたものの、近年では糸魚川市観光協会の職員の駐車場として一部が利用されるにとどまり、これまでの総合計画でもこの土地の利活用に関する記述は皆無です。

以下、この土地について伺います。

- (1) 旧JR西日本糸魚川寮敷地を市が取得した目的は何ですか。
- (2) 2018年第1回定例会で平澤惣一郎市議が旧JR西日本糸魚川寮敷地の利用について一般質問し、米田市長は「当面、駅北大火の復旧・復興に資する用途を検討する」と答弁されています。土地の入手後、市が検討した旧JR西日本糸魚川寮敷地の利活用案について、具体的に教えてください。
- (3) 約1億6,000万円で購入した、駅に至近のほぼ正方形の平たん地である旧JR西日本糸魚川職員寮敷地が有効に活用されず、明確な利用計画が何も公表されていない理由は何ですか。
- (4) 旧JR西日本糸魚川職員寮敷地の土地や建物の利活用について、久保田市長はどのような考えをお持ちですか。
- (5) 新幹線利用者は、4日間無料でアルプス口とヒスイ王国館の駐車場を使用できます。隣接する新幹線駅の駐車場と比較すると、黒部宇奈月温泉駅では、近傍の送迎用の広場以外の駐車場は常時有料で、駅から100メートルから150メートル離れた駐車場は無料です。また、上越妙高駅の市営駐車場は最初の1時間は無料で、その後は有料となっています。利用されていない旧JR西日本糸魚川職員寮敷地を暫定的に無料の駐車場として利用し、駅近傍駐車場の新幹線利用者への優遇制度を廃止、あるいは無料日数を大幅に短縮する考えはありますか。

2番目です。新技術を活用した熊対策について。

新潟県は熊出没特別警報を発表し、4月以降、当市では約60回の熊の目撃情報が市から発信され、2件の人身被害が発生しております。

2023年の私の一般質問では、熊対策として不要な柿の木の伐採支援や、登山道や山間の通学路などへ大きな音が出る熊よけベルの設置について提案しました。

熊の出没が多いのはブナなどナラ科植物の実の凶作の年であり、近年はブナの豊作と凶作の間隔がより短くなっており、豊作の年にたくさん生まれた子熊が、翌年の凶作のときに人里に出現する

ようになってきたとされています。

また、熊は学習能力が高く、単調な熊よけ鈴の音に慣れることが指摘され、人間は怖くない、人間の食べ物はおいしいと学習したアーバンベアが増えているそうです。近年は熊対策の新技術も開発され、他市では新しい熊対策を導入あるいは検討し始めています。当市の熊対策の現状や将来の展望について伺います。

- (1) 2年前の熊出没特別警報発令後、今年までの間に、熊への対策で改善されたもの、あるいは新規に導入されたものはありますか。
- (2) 今年、当市のLINEによる熊目撃情報の認知から通報までの時間を調べてみたところ、最短は8分、最長は4時間30分、平均51分でした。富山市は害獣の自動検出AI通報システムを導入し、熊と認識されたものはBアラートとして防災行政無線により自動通報しています。これにより認知から通報までの時間の短縮と、通報確認に要する労力の省力化をしています。当市の現状では人間が熊を目撃し、それを市へ連絡しないと熊の出没を通報できません。過疎化が進む地域では、熊が出没しても、目撃する確率が低下します。また、明け方や夕暮れどき、夜間などの暗い時間帯では、目視では熊とほかの野生動物を誤認する可能性もあります。来年以降も繰り返されると予想される熊の頻出の対策として、当市に新技術を用いた検知通報システムや熊が嫌う音を発する撃退システムを、熊が特に多く出没している地域に導入する考えはありますか。
- (3) 当市の美山公園、道の駅、キャンプ場など、人が集まる地域には、防災行政無線以外の個別の野外放送設備がなく、熊が出没したり、緊急通報を要する事態が発生した場合、そのことを利用者に速やかにアナウンスすることができません。AI監視カメラや放送設備などを整備し、情報提供や注意喚起を迅速にできる体制を整備する考えはありますか。

### 3、電子地域通貨「翠ペイ」の利用促進について。

株式会社トラストバンクの電子地域通貨プラットフォームサービス*chicca*（チーカ）を利用した「翠ペイ」は2024年2月に利用が開始され、今日まで約4,000人がアプリ、あるいはカード会員となっています。市では翠ペイを証明書発行手数料などの支払いやフォッサマグナミュージアムのショップなどでの利用を可能とし、住宅リフォーム助成ポイントなどに翠ペイを利用することで支給の迅速化を図ってきました。翠ペイの目的は、市内の消費活動を促進・活性化し、地域外への資金の流出を抑制して、地域内経済の循環を図り、観光客など地域外からの消費を誘引することです。これらの目的を踏まえて、翠ペイに関して以下伺います。

- (1) 11月1日に開始された、翠ペイ*de*とくたくスタンプラリーは、極めて好評で、11月20日に予算の上限に達し、終了期限の12月31日を迎えることなく終了しました。*chicca*のスタンプラリー機能を使ったのは、翠ペイが全国初でしたが、その利用状況や内容を見て、今回のスタンプラリー実施方法について、市長はどのように評価していますか。
- (2) 翠ペイについては、利用開始直後からチャージしたポイントが6か月で失効することが大きな欠点として指摘されてきました。私も6か月失効が翠ペイ利用拡大の最大の障壁であるとし、その原因は、市が発行体でないことであると指摘してきました。*chicca*は全国で40団体が運用していますが、このうち6か月でポイントが失効するのは、何と翠ペイだけであり、翠ペイの運用形態が特異であることが分かります。この状況を鑑みて、翠ペイの

目的の実現に向けて、翠ペイの発行体に糸魚川市になるという決断はできませんか。

(3) 翠ペイアプリでは、紹介画像がある利用加盟店が、非常に僅かです。運用開始直後は、糸魚川市役所市民課やフォッサマグナミュージアムなども写真がなく、担当課への私の指摘で掲載されるようになっていきます。しかしながら、現在でも糸魚川市デジタル地域通貨振興協会の参画団体や市の指定管理者となっている加盟者ですら空白になっているところが少なくありません。写真を掲載している加盟者でも、5枚まで写真を掲載する機能を利用しているところは非常に少ないです。画像の登録は、加盟店に任されていますが、現在のように空白や僅かの写真では、利用するモチベーションも低下し、地元消費の促進につながりません。

このような状況を早急に解消する必要はありませんか。

以上で、1回目の質問を閉じさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

宮島議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、駅北大火からの復旧・復興を含め、広く地域振興に資する用途で利用するため、取得しております。

2点目と3点目につきましては、具体的に使用のめどが立ちましたら、計画をお示しいたします。

4点目につきましては、過去の計画と現在の情勢が乖離していることから、抜本的な見直しが必要であると考えております。地域の皆様の意見を聞きながら、これまでの経過を尊重する中で、最適な活用方法を検討してまいります。

5点目につきましては、本定例会において条例の一部改正の議案を上程しております。

2番目の1点目につきましては、緊急銃猟制度や県と全市町村が連携して運用する、新潟熊出没マップが新規に導入されております。

2点目につきましては、熊が特定の場所に頻繁に出没している状況下では有効な手段と捉えており、導入済みの自治体の状況について情報収集してまいります。

3点目につきましては、緊急時における迅速な情報伝達の必要性は認識しており、整備に必要な財源も含め、検討する必要があると考えております。

3番目の1点目につきましては、スタンプラリーをきっかけに、翠ペイ利用者が増加し、加盟店への回遊促進と新たな集客の機会がつけられたものと評価をしております。

2点目につきましては、個人の金融資産を扱うことや、事務負担など様々な課題があるため、現時点では発行主体の変更は考えておりません。

3点目につきましては、引き続き振興協会が加盟店への働きかけを強化してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度の質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

順番どおり、1番から行きます。

旧JR西日本糸魚川寮敷地のことですが、様々な事情があったにせよ、1億6,000万円で購入した、駅に極めて近い土地が、言葉悪いかもしれませんが、ずっと7年以上、もうじき8年になります。8年、放置に近い状態とされたわけです。市長からは、この間、状況がかなり変わってきているということで、状況は日々変わってきますので、久保田市長がゆっくりと考えていると、また状況が変わって、また7年、8年過ぎてしまう、そういったことになりかねません。米田市長は、よくスピード感を持って臨もうということをおっしゃってました。まさに、行政には熟慮することももちろん大事ですが、スピード感が大事だと思います。この件についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

まさにおっしゃるとおりスピード感を持って対応するという、もう時期に差しかかっておりますので、駅北の件、そして駅南の件というふうにして、包括しながら考えていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

これは、行政だけの責任では、私はないと思います。議会には、行政の監視機能というのがあるわけです。ずっと1億6,000万円の土地が、利活用の具体的なプランが示されずに7年以上過ぎてきたわけです。この間、若干この土地についての一般質問ありましたけども、あまり突っ込んだ議論はされてきてません。私自身も、駐車場問題では触れたことがありますが、この土地そのものの利活用については触れてこなかったことを反省しております。これから、この土地のよりよい利活用に向けて、私自身も脳に汗をかいていきたいと思っております。

それで、令和4年の第5回定例会で、田原洋子市議が、北陸新幹線利用者への駐車場料金最大96時間無料制度の見直しについて、一般質問されています。そのときの井川副市長の答弁では、48時間程度の利用が多く、無料期間を96時間から48時間に短縮したとしても大きな影響はないと答弁されています。これは、昨年度の実績についても同様のことが言えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

6年度の実績におきましても、アルプス口で約8割、ヒスイ王国館では約7割の利用者が48時間以内の利用ということで、無料時間の変更による影響は少ないものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

同じく田原洋子市議の一般質問の、今度は米田市長の答弁は、令和3年度に新幹線利用で駐車場の減免を受けた台数は、アルプス口で年間約9,000台、ヒスイ王国館では年間約5,000台という答弁でした。令和6年度では、それぞれ約何千台ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

令和6年度のアルプス口で減免を受けた台数でございますが、アルプス口では約1万7,000台になります。それからヒスイ王国館のほうでは約1万台の数字が、新幹線割引を受けた台数というふうになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

今、台数お聞きしまして、例えば48時間止めた車に対して、もし減免せずに黒部宇奈月温泉駅と同じような料金体系で徴収したとすると、黒部宇奈月温泉では、48時間は900円なんですよ、48時間止めるとね。糸魚川の場合はゼロ円ですね。900円掛ける1.7万の駐車場収入があったはずなんです。これは計算上、間違いない。例えば上越妙高駅に48時間、駅前の駐車場に止めると2,000円かかるんですよ。もし上越妙高駅並みの駐車場の料金取ってたら、1.7万掛ける2,000、そういった駐車場収入が市に入ってきたという計算になります。ただ、市では96時間減免制度が続いてたので、そういった歳入はなかったと。

それで、ヒスイ王国館に対しては、タウンセンターに対しては、減免制度をやっている負担金として、年間800万円市から歳出してます。ですから、もし、もしですよ、仮な話ですけど、黒部宇奈月温泉並みの48時間900円の料金体系を取っていたら、800万円出さなくて済んだし、1.7万掛ける900円の駐車場収入があったことになるわけです。これは、結構ばかにならない金額だと私は感じています。

隣接駅と当市と比べて、例えば今、黒部宇奈月温泉と比べたり、上越妙高と比べたり、それから飯山と比べても、糸魚川の駅前の駐車場の料金というのは、物すごい大盤振る舞いというか、異常な数字になってます。破格の料金体系なんですね。なぜこういった料金体系をこれまで、新幹線の開通後、取ってきたのか、その理由を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

新幹線利用の無料の96時間の割引の部分については、新幹線開業当初から、金沢まで各駅開業したわけですが、それぞれの駅間競争というところもありまして、要は新幹線駅を利用してもらう方が増えないと、ほかの線区の例を見ますと、やはり停車本数が減っていくといったこともございます。そういったことで、利用促進の観点で96時間無料というところでスタートしているものでございます。

開業から10年が経過をしまして、議員おっしゃるような負担の部分、それからほかの、近隣の駅の部分と比べたサービスの割合といったところも勘案して、今回、議案として上程をさせていただいているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

市の96時間無料制度については、王国館からもその見直しが、王国館、タウンセンターから見直しが何回か求められています。この96時間無料制度によって、長時間止める車が多い。それによって、王国館の駐車場に短時間止めたい車が止められない。それだけじゃないんです。新幹線利用だけじゃなくて、ひすいラインの利用者もいるわけです。そういった人も使うことができない。それから悪天候の際に屋根がある王国館を好んで使いたいわけですが、それもできない。それから、王国館の中には会議室ありますよね、貸室、そういった会議のときに止めたいのに、空いてない。それから、物産センターで何か買物したい、そういうときも空いてない。多々支障が出てるわけです。

実は最近も、11月中旬に糸魚川世界の石展というのをやりました。ビーチホールまがたまは、駐車場が非常に狭いので、駅からシャトルバスを出したんですよ。その目的は、車で来た人が駅の駐車場に止めて、シャトルバスで来てほしいと。そういう狙いもあったんです。ところが、駅の駐車場がいっぱいで、車で来た人が非常に困った。こういった現実がありました。

このように、北陸新幹線の利用者の駐車場無料制度というのは、いろんな問題を包含しています。今回議案にもありますけども、96時間を48時間に縮小する。これは、劇的に96時間を24時間とか、ゼロ円にするとか、それは無理だと思いますので、今後、段階的に無料化を廃止するような方向で検討していただきたいというふうに思います。これ要望です。

次に、熊の技術ですけども、当市のホームページにある熊の人身被害防止の映像、コンテンツを拝見しました。このような内容を、分かりやすい動画とかプレゼンテーションのアプリも作って、市民課の窓口ですとか、能生とか、フォッサマグナミュージアム、駅の連絡通路、そういったところのデジタルサイネージでどんどん流したらどうかなと思います。

例えば消防の人が作った、アナフィラキシーショックとかヒートショックの動画があるんですよ。それは、糸魚川信用組合の店舗内のサイネージでも流れてますよね。ですから、市民への啓発活動

っているさまざまな手段でできますので、ぜひ熊についてもそういったことをやってください。こういった検討は、今後できますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

デジタルサイネージ等への掲載ということですが、熊の出没時期に合わせて、様々な情報伝達手段を活用して、市民に、それから市外の方にも注意喚起できないか、また庁内各課と協議してみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

おとといの日報にも出てたと思うんですけども、新しい技術を応用した熊対策、具体的にいうとドローンが飛んで、下にいる熊を自動的に認識します。それを自動的に追尾して、ドローンのGPS情報を警察や行政や猟友会に流す。それで、それらの3団体が熊の位置を正確に把握していくと、そういったことです。

それから新発田では、ドローンから熊が嫌う大きな音を出す。そういったテストをしています。

消防の方にお聞きしたら、消防が所有しているドローンでも同様のことが可能であると。当初、ドローンは勝手に市街地の上空を飛ばせないぞという問題がありました。ただ最近の報道では、国交省も、緊急時の獣害対策の場合は、自治体が許可を得ずに、住宅密集地のドローンの飛行ができると。ですから、新しい技術を活用した熊対策が、今可能になりつつあるということで、ぜひ旧来の方法だけにこだわることなく対応していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

人の生活圏に熊が出没した場合には、その生活圏外への追い払いを第一に対応を行っておりますが、やはり追跡中に見失う場合というのもありますことから、有効な手段として実用化に期待をしているところでございます。

また、ドローンの導入に当たりましては、熊の生息場所の特定が困難であったり、また、森林においては、落葉後でないで使用できないといったお話も聞いておりますので、先進事例を調査研究するとともに、オペレーターの確保も含めて検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

今回提案している新技術を応用した熊対策は、安価でできるものではありません。また、新技術

が熊問題を抜本的に解決する特効薬でもありません。ただ、旧来の方法だけじゃなくて新しい技術を熊対策に利用しようとする潮流に乗り遅れないようお願いしたいと思います。

今日の利根川議員、それから、和泉議員の質問でありましたが、森林環境譲与税を熊対策に活用する。そういったこともぜひ研究を深めていただきたいと思います。

ただ、新技術だけではなくて、私は地域と連携した地道な旧来の熊対策の充実も必要だと思います。具体的には、不要な柿や栗の除去、ごみは前日でなく、収集日の当日に出す。それから、熊鈴の携行、早朝・夕方の単独外出を控える、やぶを刈る、空き家や倉庫の施錠やチェック、こういったことは、地域ぐるみでできることですので、新技術は必要ありません。地道な活動を充実させて、熊対策につなげてください。

それから、これは非常に私も声を大にして言いたいんですが、熊の出没を受けてネットでは、いろんな情報が流れてます。例えば熊が出てきたのはメガソーラーが原因だとか、それから熊に撃退スプレーをシューとまけば、熊は入ってこないとか、それから熊が里に下りてこないようにドングリを山にまけば、熊の対策になる。それから熊に山で遭ったら荷物を置いて逃げる。それからハンターが、金もうけのために熊を駆除してる。それから、そういったことがネット上に結構書いてあるんですよ。これら全部、誤った情報です。

ただ、人によっては安易に信じてしまって、こうだったらいいよというふうにね、拡散する可能性があるんですよ。正しい情報を分かりやすく市民に提供することも熊対策では大事だと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。これについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

熊情報に限らず、災害時に誤った情報、フェイクニュース等が拡散されるといったことがあるように聞いております。目にした情報をうのみにしないで、正確性が判断できない場合には、安易に情報を投稿、拡散しないようにすることが大事であり、市民の情報リテラシー力の向上にもつながるように、機会を捉えて、また市民周知に取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

この市役所の入り口のドア、自動ドアです、センサー式。それから市民図書館も同様ですし、歴史民俗資料館も同様です。市の公的な施設の入り口には、自動ドアが結構設置されていて、そのほとんどは人感センサー式ですよ。人感センサーは、困ったことに熊にも反応してしまうんですよ。熊が本庁の入り口に來たら、開いてしまうんですよ。それから、熊がガラスに突進するシーンが結構動画で流れてますが、この理由は、熊にはガラスが見えずに暗い空間、穴として捉えてるという話があります。熊は暗いところ好きなので、そこに向かって行って、ガラスにぶつかっちゃう。そうするとドアが開いて、さらに行くと、そういったことなんですね。

三条信用金庫では、人感センサー式をやめて、タッチ式にしたそうです。全てのところをやる必

要はないんですけれども、例えばフォッサマグナミュージアムみたいに山にある公的な施設で、人感センサーを使ってるような自動ドア、これはやっぱりタッチセンサーにしないと、万が一、熊が博物館の館内に入ったら大暴れで、大切な標本とか資料が台なしになることは、もう目に見えてるわけですね。比較的安価で、10万以下でタッチ式にできるそうです。ぜひ今後、検討していただきたいんですが、もう既に検討されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今、大分前になりますけど市役所のそばでも熊が出て、見かけたことがございます。今、熊が出没しやすい場所にある施設については、今の議員おっしゃるご意見を参考に、検討してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

美山公園の博物館では、長者ヶ原考古館とかあります。これは、先見の明があると思いました。自動ドアじゃないんですよ。入り口は、引き戸なんです。だから、熊対策にはばっちりということで、熊に対しては最も先進的な文化施設ということが言えると思います。

スタンプラリーの話に移ります。

スタンプラリーは、11月1日から始まって20日に終了したわけですが、その間にアプリ会員は何人増えましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

11月1日の開始から11月20日の終了までに、アプリ会員は400人増加しております。このスタンプラリーの告知が10月24日からになっておりますので、10月24日から11月20日の終了まででカウントいたしますと、531人が増加しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

それだけ短期間に500人もの方が新規にアプリ会員になったということは、それだけインパクトがあったということです。スタンプラリーへの参加者は、何人でしたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

スタンプラリーの参加者、アプリをダウンロードされた上で、スタンプラリーのほうに参加された方は1,588人となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

1,600人近い人が参加されたということで、非常な盛り上がりだと思います。

利用された方が、1つのお店で使った平均の利用額は幾らだったでしょうか。

それから、1店舗での最多の利用額、1人当たり、例えば1万円とか2万円とか、それから最低の利用額、もし調べてましたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

1利用者、1店舗当たりの利用平均額であります。要はスタンプを1つ獲得するのに使用した平均額は840円となっております。最多が22万円、最少が1円となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

今、山崎課長の答弁の中で1円という数字で、一様に驚かれた声が聞こえてきましたけども、実は1円でスタンプを取得できたんですよ。これは、現金併用してる人ですけども、スタンプラリーが短時間で終了した原因は、20店舗を回ると2万2,500ポイントがもらえたんです。その利用額は1円でもよかったわけですよ、1円でも。だから20店舗もあると20円ですよ、計算上は。20円使うと2万円以上もらえる。これはもう公営ギャンブルだったらもう大変な配当金ですよ。それぐらいすごいね、ある意味驚くべき比率のプレミアムだったわけですよ。これはね、やっぱりいろんな人から聞いたんですが、最低利用額を設けるべきじゃなかったかと。例えば500円以上使った人がポイントをもらえると。そういった検討をすべきだったというふうに私は思います。今後、また再びスタンプラリーをやるときに、今回の利用状況とか、利用額、そういったものは当然考えながらやっていくわけですけども、次回もしやるとしたら、今回の反省に立って、やってほしいと思います。この辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

宮島議員ご指摘の部分について、我々のほうでもスタンプの収集だけのために過度な定額利用という部分については、制度的に制限できなかったことは非常に残念だったというふうに捉えております。

一方では、新規利用者のこれまでにない拡大ということもできましたし、新たな店舗の発見という部分で、このスタンプラリーの機能自体はすばらしいものだというものはつかめたというふうに思っております。

年明け2月、令和8年の2月で、制度始まってから丸2年が経過しようとしております。先月、11月末までの総発行額が約3億円まで来ました。利用額で2億5,000万円ぐらいまで来ておりますので、まだまだ浸透には時間はかかるというふうに考えておりますが、この翠ペイが、今後、まだ利用者、加盟店とも末永く利用されるような地域通貨となるように、まだまだ改善の余地がございますので、引き続き検討を行ってまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

宮島議員。

○11番（宮島 宏君）

ぜひ翠ペイを地域のために役に立ててほしいと思います。

桐生市に桐ペイというものがございますけども、翠ペイと同じく *chica* を使ってます。これは発行体が桐生市になっています。

先ほど市長からは、発行体に糸魚川市になる気がないということ、答弁ありましたけども、これは全国的に見ても極めて異例じゃなくて、異常なことなんですよね。こんなことでオリジナルティ出す必要はないと思うんです。ですから、全国でどういうまちがうまくいってるかというのを研究して、そのまねでもいいですからやってほしいと思います。

桐ペイは、利用可能店が800店あるんですよ。800店中、65%が写真掲載してます。ところが翠ペイは、3割しか掲載してないです。先ほど申しましたように振興会、進めるべき人たち、あるいは指定管理者、そういったものすら出てない。これはぜひね、早急に改善していただきたいほうがいいと思います。これは皆さんも当然知ってると思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

今日の答弁では発行体にならないよということでしたけども、来年、実施2年、それを機に、もう一回熟慮していただいて発行体に、糸魚川市になるということを決断していただきたいと思えます。

あと1分ですので、まとめます。

今回の一般質問では、旧JR西日本の糸魚川寮の土地についての有効活用、熊対策の新技术、それから翠ペイの利活用、その3点を取り上げさせていただきました。

行政におかれましては、合併後の20年のやり方や考え方に拘泥することなく、新糸魚川市を皆さんの力で作り上げていっていただいて、そういうことを強く希望して、今回の私の一般質問を閉じさせていただきます。

理事者及び担当課には、丁寧かつ前向きなご答弁をいただいたことに深謝いたします。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

関連質問の時間をなしと考えます。

よって、本日はこれにとどめ、延会とさせていただきます。

皆様、大変ご苦労さまでした。

〈午後 3 時 5 8 分 延会〉

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員